

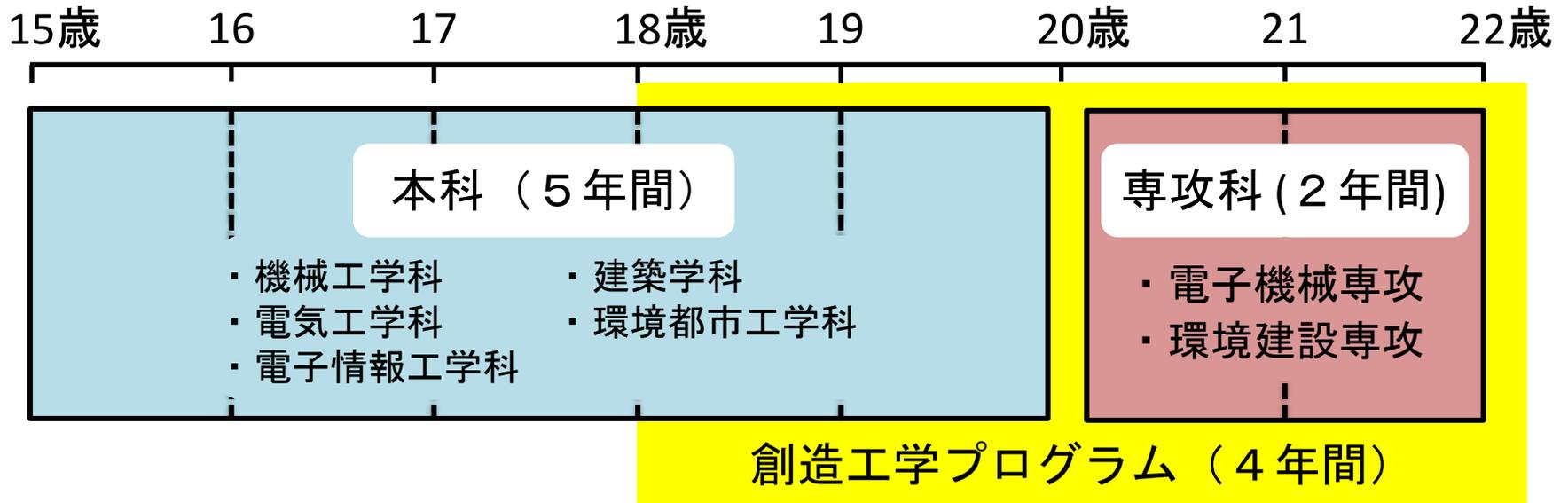


石川工業高等専門学校

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, ISHIKAWA COLLEGE

地域連携による持続可能な 長期インターンシップの取り組み

石川高専 (KOSEN) の教育プログラム



◎ 創造工学プログラム

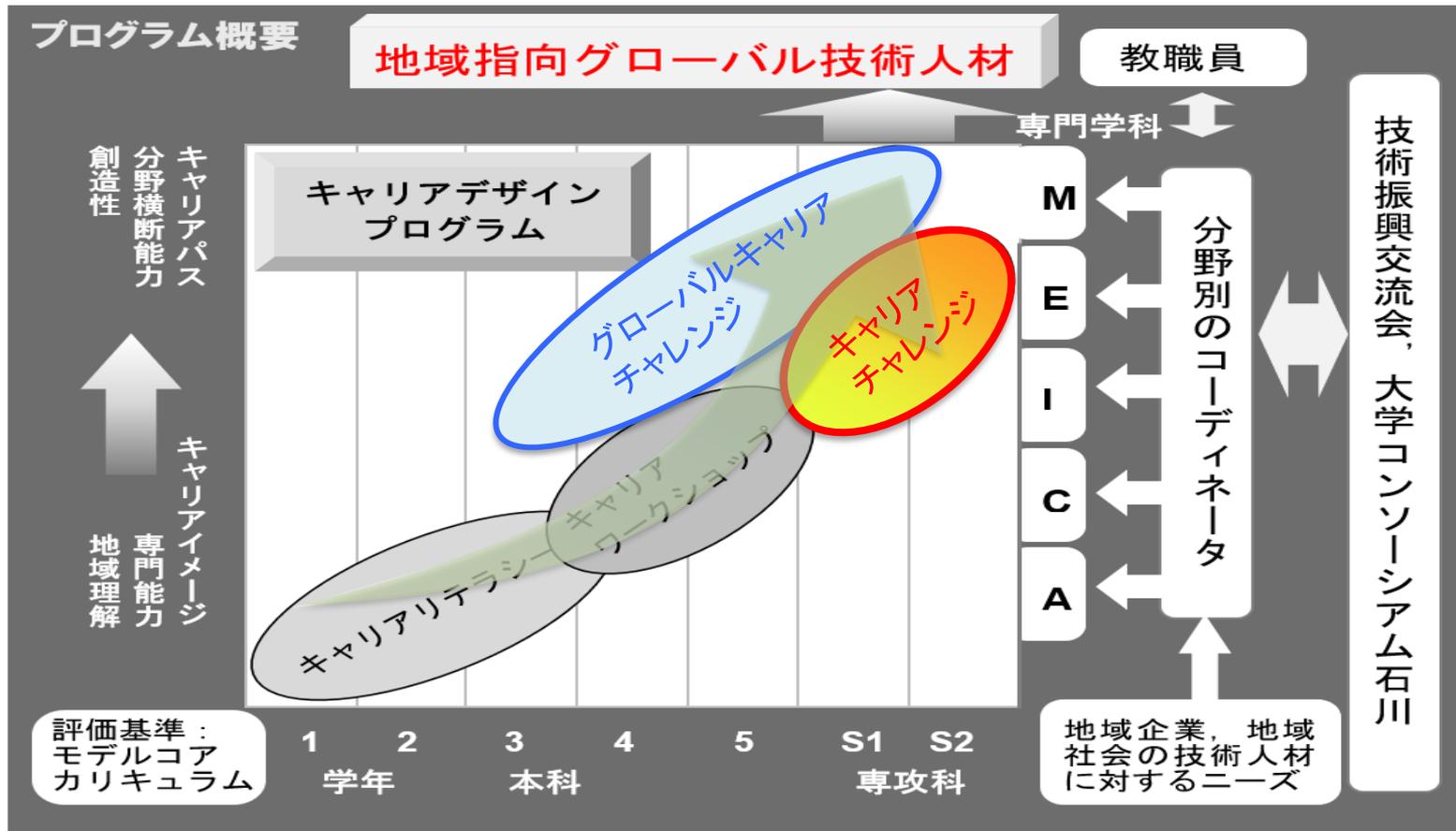
- ・ 一貫教育による社会発展を支える技術者を育成.
- ・ 「複合工学修得コース」は, JABEE (日本技術者認定機構) より, **国際的に通用する技術者教育プログラム**として認定.

◎ 学位の取得

- ・ (独) 大学改革支援・学位授与機構において特例認定を受けた専攻科.
- ・ 大学と同じ**学士(工学)**の学位を授与.
- ・ 大学卒業と同等として**就職**のほか**大学院進学**も可能.

地域連携による実践的なグローバル技術人材育成 — キャリアデザイン教育 —

本校インターンシップは全学的プロジェクト「地域連携による実践的なグローバル技術人材育成」におけるキャリアチャレンジ及びグローバルキャリアチャレンジの位置付けであり、**本校技術振興交流会の会員企業(約250社)の支援体制**のもと、地元人材育成サイクルに貢献する持続可能な教育プログラムを実践していることを特徴とする。



キャリアワークショップ(本科高学年)

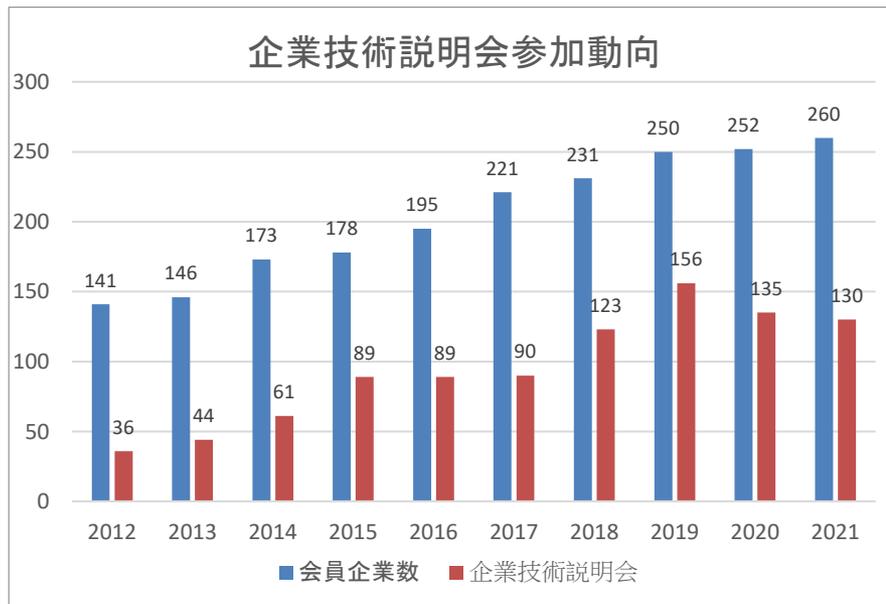
— 地域企業や地域社会を自ら研究し、そこでの課題に取り組む —

◆企業技術説明会(昨年度に続き、**2021年度もオンライン**で実施)

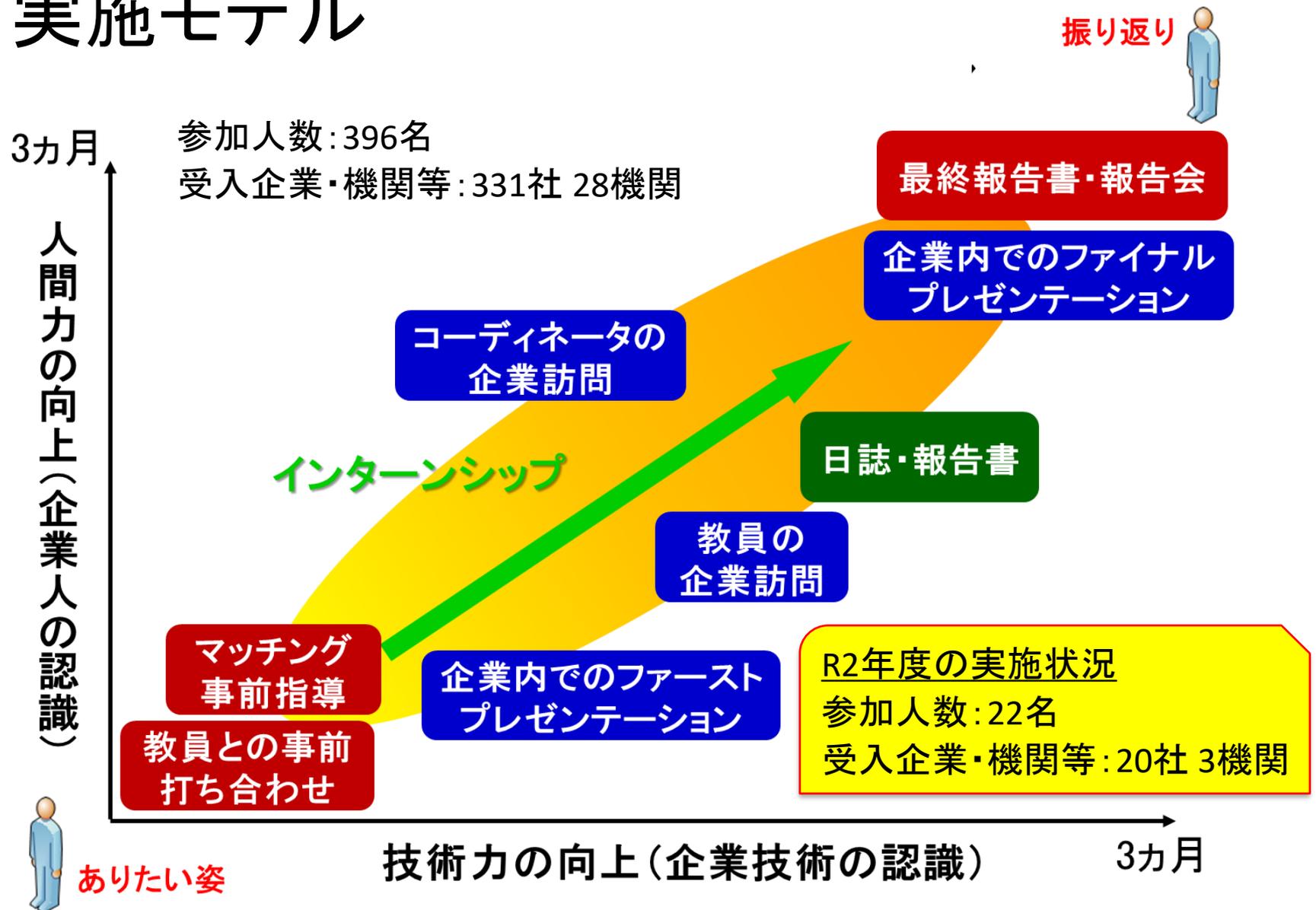
趣 旨: **キャリア教育**の一環。3・4年生は地元企業を知る機会

参加企業: **地元企業**を中心に県外企業も参加

実施方法: 本校にある二つの体育館で実施、学生(3・4年生)は、
各社のブースを巡回、**OB・OG**等が説明



長期インターンシップ(キャリアチャレンジ) 実施モデル



専攻科におけるインターンシップの位置付け

概要（教育目的・育成する人材像）：

企業等において3ヶ月にわたる長期のインターンシップを行い、現実の課題に取り組む体験を積むことによって高専で身につけた基礎学力と専門知識を高めるとともに、これまで学んだことを生かしつつ更に発展させ、課題を把握し解決する能力を身につける。また、地域社会に対処するためにも地域企業が抱える課題や社会的課題に対処できる能力を身につけ、自己の感性及び創造性を養うことを目的とする。

<専攻科課程の学習目標(ディプロマ・ポリシー)>

4. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。

<教育課程>

インターンシップ(専門共通の必修科目)：

1単位45時間の演習科目として10単位を設定(450時間)

<創造工学プログラム(JABEEプログラム)の学習目標>

プログラム重要科目

到達目標D(1): 地域企業などでのインターンシップをとおして、実務上の問題点と解決法の現状を体得している。

科目と学習・教育目標との対応表 <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/jabee/subject.html>

実施内容

(1) **対象学年**: 専攻科1年(定員20名:令和2年度は22名)

(2) **実施期間**: 9月23日(水)から12月11日(金)まで(3ヶ月)

(3) **単位数**: 必修10単位

(4) **実習受入照会企業等**:

本校技術振興交流会に加盟している地元企業, その他特別研究指導教員と関連のある企業

(5) **分担等**: 実習受入先への依頼は学生課教務係が行う。なお, 特別研究指導教員と関連のある企業についてはこの限りではない。

派遣学生の調整は専攻主任が行い, 事前事後指導については特別研究指導教員等が行う。

(6) **実習**: 学生は実習指導責任者(実習受入企業等の指導責任者であって校長の委嘱するものをいう。)の指示に従って実習する。

(7) **実習内容**: 学生の専攻分野に関連した内容で, 受入企業等が通常業務の一環として, 学生に対し実施可能と判断した業務。

実施内容(続き)

(8) 報告書:

① インターンシップ実施期間中

- ・学生は、インターンシップ中間報告書と日誌を作成し、1ヶ月毎に指導教員と学生課へ提出する。
- ・実習受入先への報告書等については、受入先の指示に従う。

② インターンシップ実施後

- ・学生は、インターンシップ最終報告書を作成し、実習受入先の押印を受け、指導教員へ提出する。指導教員は確認後、速やかに学生課へ提出する。

(9) 実習受入先からの評価:

実習受入先は、学生の実習状況に基づき、評価等を記入した「インターンシップ実施状況報告書」を専攻科長に提出する。

(10) **巡回指導**: 実習期間中は当該学生の特別研究指導教員が分担して月一回程度の巡回指導を行い、「インターンシップ巡回指導報告書」を作成し、専攻科長へ報告する。

(11) **評価方法**: 専攻科長は、インターンシップ実施状況報告書、インターンシップ巡回指導報告書、インターンシップ中間報告書、インターンシップ日誌、インターンシップ最終報告書及びプレゼンテーション等に基づいて評価する。

Webシラバスの活用

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?schoool_id=18

目的・到達目標

1. インターンシップを通して、自分の専門分野に関する知識を再確認する。
2. 自分の知識、能力を高める。
3. 仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につける。
4. 人間としての成長を図ると共に自らが目指す技術者像を明確なものにする。
5. 課題を発掘して解決する手法を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標 項目1, 2, 4	自分の専門分野に関する知識を再確認し、主体的に自分の知識、能力を高め、自らが目指す技術者像を明確にできた。	自分の専門分野に関する知識を再確認し、自分の知識、能力を高め、自らが目指す技術者像を明確するよう努力した。	自分の専門分野に関する知識を再確認し、自分の知識、能力を高め、自らが目指す技術者像を明確にできなかった。
到達目標 項目3	仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につけることができた。	仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につけるよう努力した。	仕事の進め方、人との接し方を学び社会のルールを身につけることができなかった。
到達目標 項目5	課題を発掘して解決する手法を身につけることができた。	課題を発掘して解決する手法を身につけるよう努力した。	課題を発掘して解決する手法を身につけることができなかった。

学科の到達目標項目との関係

創造工学プログラム D1

説明

教育方法等

概要:

企業等において3ヶ月にわたる長期のインターンシップを行い、現実の課題に取り組む訓練を積むことによって高専で身につけた基礎学力と専門知識を高めるとともに、これまで学んだことを生かしつつ更に発展させ、課題を把握し解決する能力を身につける。また、地域社会に対処するためにも地域企業が抱える課題や社会的課題に対処できる能力を身につけ、自己の感性及び創造性を養うことを目的とする。

授業の進め方と授業内容・方法:

【事前事後学習など】終了後インターンシップ報告書を作成し提出すること。

注意点:

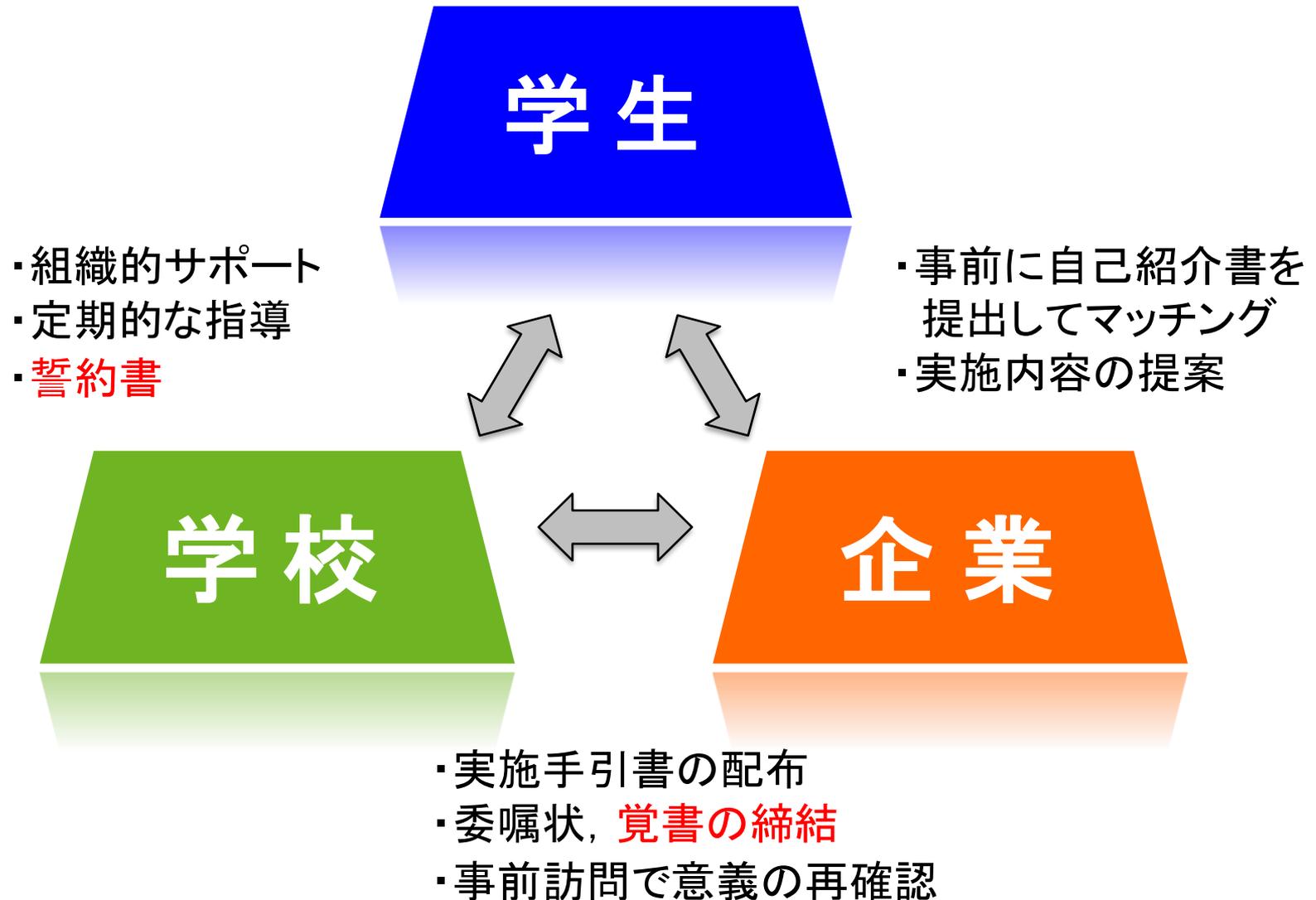
各受入企業等が定めたプログラムに沿って学生は仕事の目的・目標を意識して自主的、積極的にそれらを遂行することが重要である。日々の実習内容は記録しておき、最終的にはその実習内容を報告書としてまとめ、提出する。

実習状況や問題点を受入企業に随時報告すること。

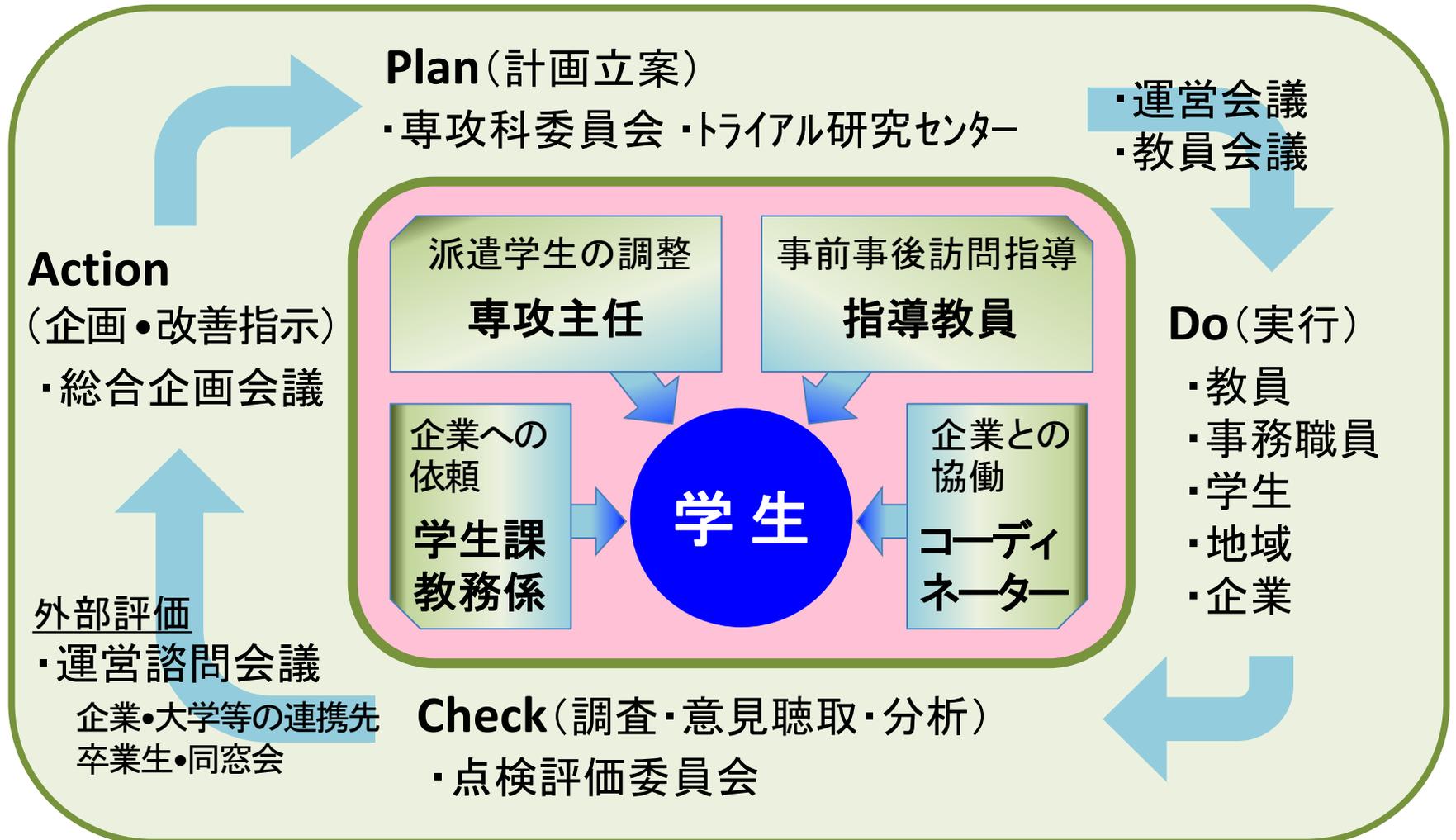
【評価方法・評価基準】成績の評価基準として60点以上を合格とする。

派遣企業等からの評価30%、巡回指導の評価10%、学生から提出される報告書の評価30%、プレゼンテーションの評価30%

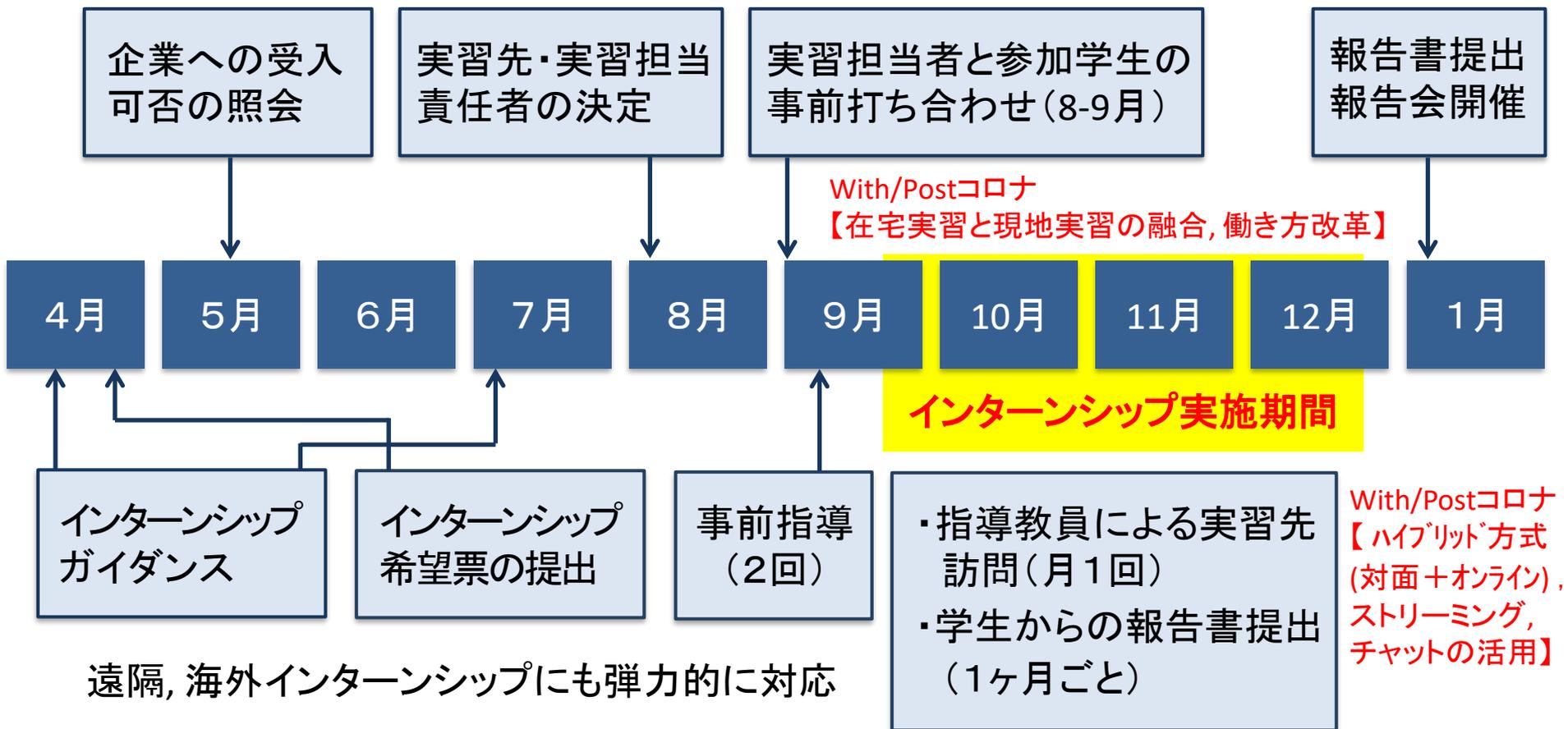
学生・学校・企業との連携・協力



組織的なサポートと教育改善の仕組み



長期インターンシップの年間スケジュール



実習の前にはすること

■書類等の提出

- * インターンシップ依頼伺
- * 誓約書, 履歴書

■自己紹介書の作成

- * コーディネータとの面談の後最終版を提出
- * 夏休み期間中に実習先企業訪問時に提出

■指導教員と共に実習先企業訪問(夏休み期間中)

- * 企業側の窓口, 担当者の所属・氏名, 連絡先を確認
- * その他の確認事項

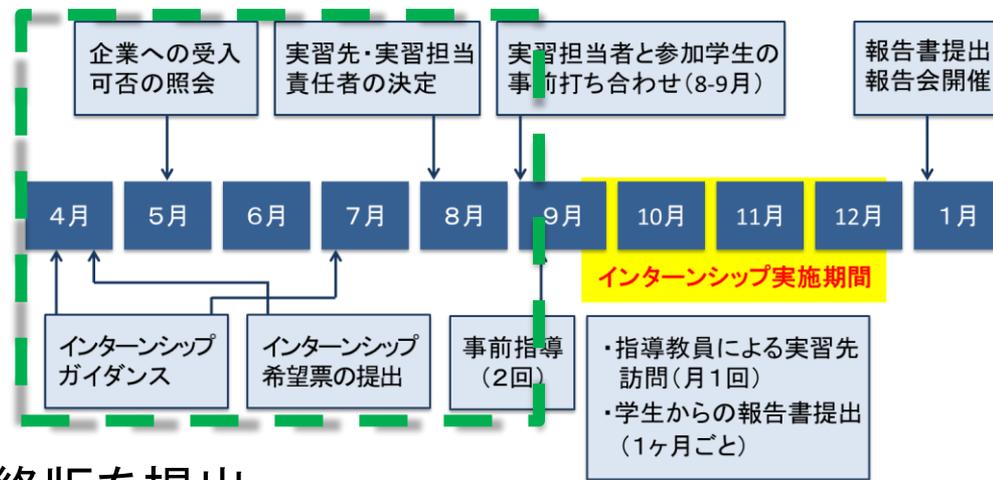
初日の出勤時間と場所, 服装, 持ち物, 交通手段

■第3回インターンシップガイダンス(事前指導Ⅰ)

内容: 心構えとマナー講習

■第4回インターンシップガイダンス(事前指導Ⅱ)

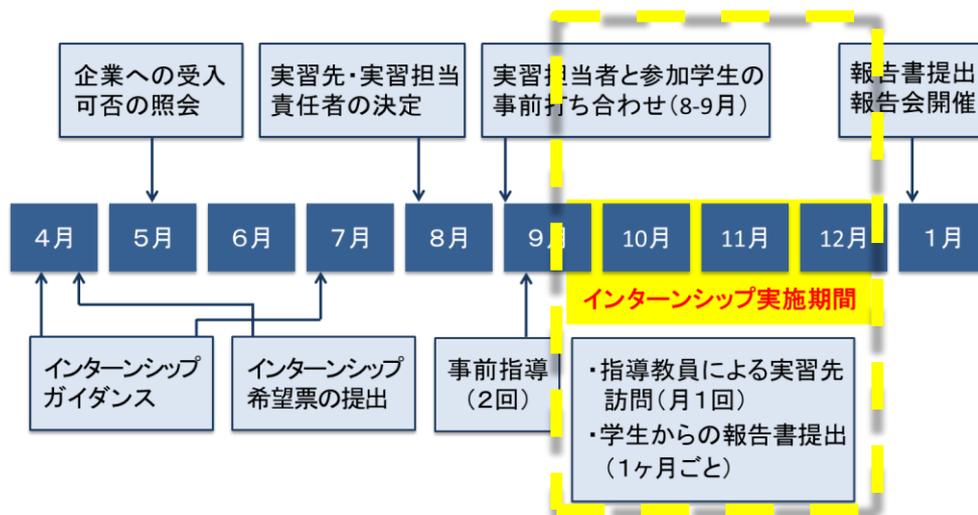
内容: 労働法と安全衛生に関する講演



実習中の提出物

■ 毎月の提出物 計2回

- (1) インターンシップ日誌
- (2) インターンシップ中間報告書
1回目: 開始⇒10月末まで
2回目: 11月⇒11月末まで



■ 実習終了時の提出物

- (1) 最終報告書
事後指導時に提出
- (2) インターンシップ日誌(12月分)

注: 担当者に**機密事項等の確認**を受けている



実習風景

実習のあと

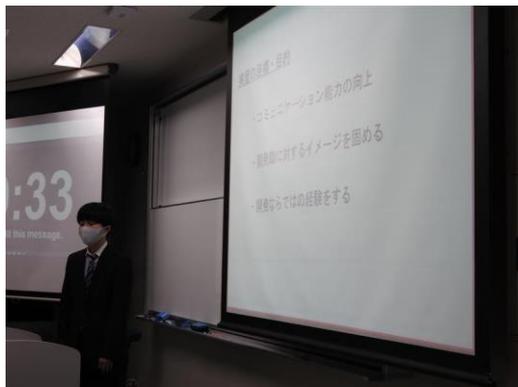
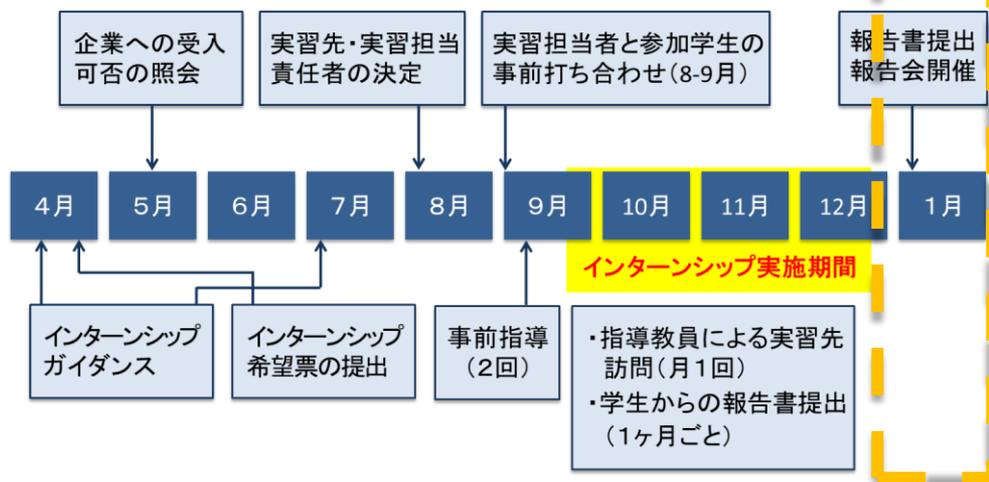
■ インターンシップ事後指導

■ インターンシップ報告会

■ 報告会に向けての提出物

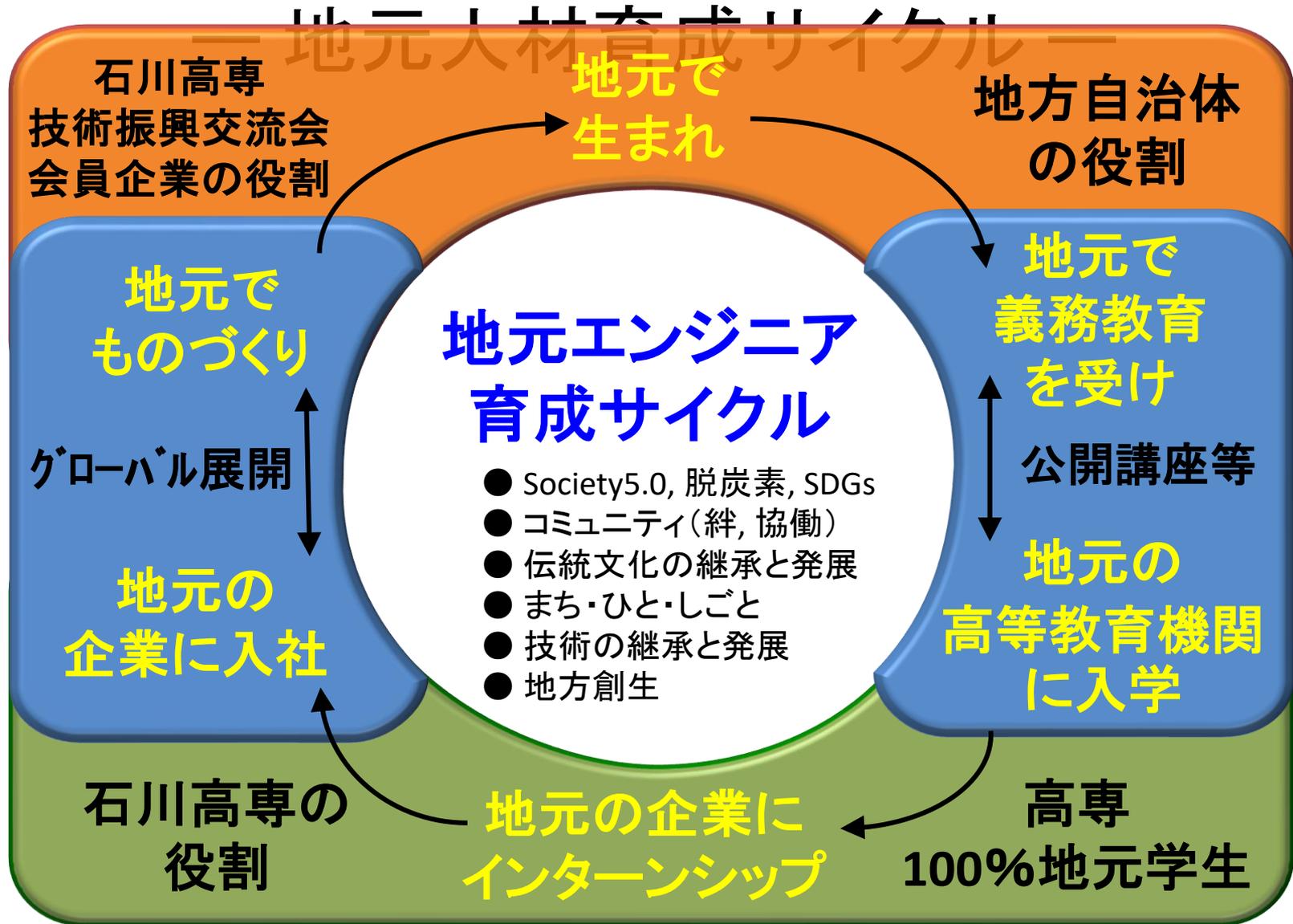
- (1) 報告会レジюме (Word 1ページ)
- (2) 1 page PDF (PowerPoint 6スライドを1ページに)
- (3) 発表用資料 (PowerPoint 8ページ)

* 外部公開されるため、機密事項等について
実習担当者の確認を受けている



ハイブリッド方式での報告会

地域連携による実践的なグローバル人材育成



石川高専が取り組む長期インターンシップの強味

(1) 技術振興交流会の見学会、総会・講演会、企業技術説明会、石川高専テクノフェスタなど、技術振興交流会会員と石川高専教員による意見交換の機会を多数設け、交流を活性化させている。

(2) インターンシップ報告会では、例年、受入企業担当者、技術振興交流会会員、教職員が一堂に会して、口頭・ポスター発表、意見交換、アンケートを行っており、委員会で実施方法、教育効果、企業と学生の価値観の差異等について分析・検討され、このことが継続的な教育改善に繋がっている。

(3) 専攻科2年次の「特別研究」最終報告会は企業参加の外部発表として開催され、1年次インターンシップの後、学生がどのように成長したかを企業担当者も確認できる仕組みとしている。

(4) 地元人材育成サイクルの好循環ができているため、本校専攻科生の進路では、就職率が70%以上と高く、その中でも地元就職が就職希望者の約50%（就職者のうち40%以上がインターンシップ先にそのまま就職）と高い割合になっている。